



# 栃木医療センター 広報誌

No.44 2021 January

理念  
信頼 貢献 協働

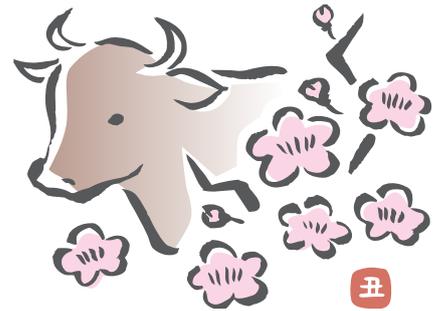


## Contents

- 年頭のご挨拶 ..... 1・2
- 連携医紹介  
(菅井皮膚科パークサイドクリニック) ..... 6
- 病棟紹介 ..... 3・4
- 寄附のお礼/交通のご案内 ..... 裏表紙
- 診療科紹介(循環器内科) ..... 5

2021年

# 年頭のご挨拶



院長 長谷川 親太郎

明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を申し上げます。

コロナ禍を迎えて、一年近く経ちました。世界中に急速に拡散し、社会的にも経済的にも大きなダメージを与えてきた新型コロナウイルス感染症ですが、現状について考察してみます。特効薬やワクチンに関しては、まだ満足できる状況ではありませんが、そのような状況でも人類は少しずつ対処方法を学んできています。特に、3密を避ける、マスク着用、手指衛生などのいわゆる“新しい生活様式”は、それなりの効果を発揮しています。また、感染防止と経済活性化のバランスの取り方も徐々に上達してきたと感じています。今年は、さらにコロナ禍克服に近づいてくれると期待しています。

ところで、私ごとですが、栃木医療センターに赴任し29年、院長に就任して7年経過しましたが、この3月末で定年退職いたします。長い間大変お世話になりました。今後とも栃木医療センターを宜しくお願いいたします。



副院長 田村 明彦

明けましておめでとうございます。

新型コロナに明け暮れた一年が過ぎ、2021年を迎えることができました。

診療を含め様々なものが中止、制限、先送りとなりました。治療法や病態の解明が進んできて、元通りとはいきませんが、社会は回復へ向かっています。

当院もこの機会に更に感染対策を充実させ、感染症指定医療機関であるからこそ、安心して受診できるような環境整備を行っています。

脳心臓血管疾患、糖尿、高血圧、がんなどの必要な診療はあまり延期できません。できるだけ安全に、無理なく早く取り戻すのが本年の課題と考えます。

今年は丑年で、地道によく働く年とされています。地域の皆様と協力してより良い年にしていきたいと思っております。



統括診療部長 石原 雅行

新年明けましておめでとうございます。昨年は、年始から『コロナ禍』で振り回され、瞬く間に過ぎ去った1年間でした。その中で貴重な経験もしました。全国と手軽につながるリモート診療や会議などからオーバーイーツまで、新しい可能性を示唆する興味深いものでした。一旦手にした便利なアイテムは、もう手放すことはできないですね。総合病院運営も大きく変化して、病院の進化発展というのは、医療の質の向上や効率性アップだけの問題ではないということを実感しました。非日常の環境や常識が覆されるような変化に晒された時に、医療者として、また総合病院としての実力が問われると思います。良き過去の日々を懐かしみつつも、新しい環境に適応し、進化発展できる一年にしたいと思います。皆様、本年もよろしくお願い申し上げます。



臨床研究部長・治験管理室長 加藤 徹

明けましておめでとうございます。新年のご挨拶を申し上げます。2013年元旦に当院に赴任して8年になります。国立病院機構や大学との多施設共同研究もいくつか実を結びました。最長7年フォローアップ率97%という貴重な研究もございます。臨床研究に参加いただいている患者さんにつきましては、年に1度、お元気に通院されているかについて、開業医の先生方にお手紙を差し上げております。診療で大変ご多忙のところ丁寧なお返事をいただきまして、誠にありがとうございます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



事務部長 関川 義明

新年明けましておめでとうございます。私は、昭和55年採用、病院勤務11施設目、今年42年目を迎えることとなり、昨年4月にお隣の宇都宮病院から赴任いたしました。出身は日本海の離島である新潟県の「佐渡ヶ島」で観光名所も数多く有り、定かではありませんが、自給自足のできる唯一の島として定年後に移住される方もいらっしゃるかと伺っております。栃木医療センターには、平成16年4月の独立行政法人化移行の際に勤務させていただき、約15年振りとなります。着任早々は、新型コロナ対応に日々追われ、慌ただしい昨年でありましたが、本年はコロナ収束により、平穏な時が戻ることを期待しながら、診療部・看護部・コメディカル部門等との連携を図り、事務部として何が出来るかを常に模索し、当院の理念である「信頼」「貢献」「協働」を念頭に使命を果たせるよう努力して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。



看護部長 原沢 正美

新年あけましておめでとうございます。ひとりひとりが今まで以上に感染防止に取り組みながら日常生活を送るようになりました。看護部職員も、医療従事者として感染防止対策を徹底しながら「人に寄り添い思いに共感できる」という看護部理念のもと努めております。今年も地域の皆様方と連携し、患者様とご家族が安心して生活するための支えとして「誠実さ」「思いやり」「真心」の看護を実践していきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# 5階病棟

5階病棟 看護師長 渡辺 恵美子

5階病棟は外科・耳鼻咽喉科の周手術期看護、消化器外科・消化器内科の消化器系疾患看護を中心とした混合病棟です。

病床数は50床のうち4床のハイケアユニットを有しており、手術後の患者さまや様々な診療科の集中治療が必要な患者さまの受け入れも行っております。昨年は、805件の手術が行われ、毎月60～70件の手術に対応しています。院内では6階病棟に次いで2番目に手術件数の多い病棟となっています。

当病棟には看護師32名、業務技術員3名、病棟クーク1名、ナースアシスタント1名が配置されており、患者さまがより良い入院生活が送れるようサポートしています。手術後の全身管理をはじめ、リハビリ科と連携し早期離床を促し、術後の合併症を予防し早期に退院できるよう日々看護を行っています。また、術前術後の看護のほかにも、化学療法や放射線治療などの内科的治療に対する看護も行っています。当病棟には手術室看護認定看護師・緩和ケア看護認定看護師・認知症ケア認定看護師の3名の認定看護師が配置されています。認定看護師を中心に周手術期チーム、緩和・化学療法チーム、手術直後・重症患者看護チームの3つのチームに分かれ、それぞれの専門分野を生かしより専門性を持ってスタッフが看護にあたるよう日々努力しています。手術や検査などの対応で病棟は忙しく、体力的にも大変ですが、明るさ・チームワークの良さで日々より良い看護が提供できるようがんばっています。

また、患者さま・ご家族が入院中だけでなく退院後も安心して生活できるよう、入院時から医師やMSWなどの多職種でカンファレンスを積極的に行い連携しています。退院後の状況に合わせて、地域の医療や介護の関係者のみなさまとも連携させていただいています。

「人に寄り添い思いに共感できる」という看護部の理念のもと、患者さま・ご家族の不安を少しでも軽減でき、安全に安心して入院生活が送れ、その人がその人らしく元の生活に戻れるよう、常に患者中心の医療・看護をめざし医療チーム一丸となって援助していきたいと思います。



# 6階病棟

6階病棟 看護師長 熊倉 英高

6階病棟では、歯科口腔外科・泌尿器科・眼科・皮膚科・脳外科の患者さまを受け入れています。手術目的の短期入院が多いため、標準的な治療と経過をまとめたクリティカルパスを使用して、患者さまに分かりやすく入院経過を説明しています。

当病棟の特徴は、多職種それぞれが専門性を活かして患者さまをサポートしていくことです。

口腔外科では全身麻酔や静脈麻酔を用いた抜歯手術患者さまの他に、舌がんなどの口腔がんの患者さまも積極的に受け入れ治療しております。歯科医師と共に歯科麻酔医、放射線治療医師、がん放射線治療認定看護師そして病棟看護師と連携をとり患者介入を行っています。口腔癌の手術後は、歯科医師とともに病棟看護師が創部の処置・観察をしながら、食事の形態を調整や栄養補助食品の付加をしています。必要によっては、言語聴覚士や摂食嚥下チームと連携して術後のリハビリを行っています。また、放射線治療による口腔内のトラブルには、病棟看護師とともに歯科衛生士や口腔ケアチームがケアを行い、照射部の皮膚トラブルに対しては、放射線科医師やがん放射線療法認定看護師のアドバイスも受けています。

泌尿器科では、がんの手術や化学療法・放射線療法の患者さまを対象として治療、看護をしています。治療のために複数回入院される患者さまもおられ、術後の発熱や尿性状、抗がん剤の副作用症状の観察などを、以前の入院経過も踏まえて丁寧に観察・支援しています。がん治療では、安全に治療が行えるように薬剤量の選択や副作用の観察・対応を薬剤師と相談しています。また、抗がん剤による副作用で食欲が低下することがあり、その際は看護師が患者さまの症状を聞いて、栄養士とも相談しながら食べやすいお食事に変更しています。さらに、手術や抗がん剤治療に関する意思決定支援も行っています。特に、病状が変化した時や体調に変化が見られた時は、今の治療が適切なのか・今後行う治療方針が適切なのか、患者さまやご家族さまの気持ちが揺らぐことがあります。その際には医師とともに看護師がそばで寄り添って患者さまとご家族の気持ちを聞かせてもらい、患者さま自身がよりよい選択をできるようサポートさせていただいています。時には緩和ケアチームの専門的なアドバイスも参考にして、治療や疼痛緩和、意思決定支援を主治医と連携して行っています。

経験豊富な看護師と若い力があふれた看護師がつくる明るい雰囲気のある6階病棟で、病気の治療と安楽な生活が送れるように支援させていただきます。



# 診療科

## 紹介

# 循環器内科

循環器内科医長 足立 太一

今年度で循環器内科開設から8年目になりました。循環器内科では狭心症や心筋梗塞などの冠動脈疾患へのカテーテル検査・治療（PCI）、閉塞性動脈硬化症を中心とした末梢血管疾患へのカテーテル治療（EVT）、徐脈性不整脈へのペースメーカー植え込み手術などの治療を、適応を見極めつつ積極的に行なっています。また年々増えつつある心不全については内科医と協力し診療にあたっています。

### 心臓カテーテル検査・冠動脈インターベンション（PCI）

今日の循環器診療では虚血性心疾患と呼ばれる狭心症や心筋梗塞の占める割合が非常に多くなっています。外来で行う検査には運動負荷心電図、冠動脈CTなどがありますが、確定診断と治療の中心となるのがカテーテル検査・治療です。当院では予定検査は1～2泊、治療である冠動脈インターベンションは2～3泊の入院で行っております。昨年度のカテーテル検査治療総数は395件で年々増加の傾向にあります。また急性心筋梗塞などの緊急カテーテル治療には24時間体制で臨んでおり、連携医である医療機関からの依頼には循環器内科医直通の「栃木医療センター循環器ホットライン」を運用しています。救急外来とカテーテル治療室の体制の整備により、病院到着から再灌流までの時間（door to balloon time）は平均58分と大変短い時間を達成しています。

### 末梢血管内カテーテル治療（EVT）

下肢の血管の動脈硬化により血流が低下し下肢に様々が弊害を生じる病気が閉塞性動脈硬化症です。治療には、禁煙、運動療法、内服薬による保存的治療、血行再建（カテーテル治療・バイパス手術）がありますが、間欠性跛行を有する患者や重症下肢虚血の患者様には積極的に末梢血管内カテーテル治療（EVT）による血行再建術を行っております。この領域の治療の進歩は日進月歩で、以前はバルーンによる単純な拡張とステント留置しかありませんでしたが、現在は薬剤溶出性バルーン、薬剤溶出性ステント、ステントグラフトが使えるようになり短期成績も長期成績も向上しています。下肢の壊死をきたしている重症下肢虚血の治療ではEVTのみならず総合内科医、整形外科医、皮膚科医の協力のもとに包括的治療を行っております。

カテーテル検査治療総数	395	心エコー	2120
冠動脈インターベンション（PCI）	146	経食道心エコー	16

末梢血管インターベンション（EVT）	24	ABI / PWV	340
恒久的ペースメーカー植え込み	26	冠動脈 CT	115
下大静脈フィルター植え込み / 回収	2	大血管・末梢血管 CT	382
心筋生検	3	心臓 MRI	23

### <スタッフ紹介>

氏名	専門分野	主な資格
足立 太一	冠動脈インターベンション 末梢血管内治療（EVT） 循環器救急	日本心血管インターベンション治療学会専門医 日本 ACLS 協会 ACLS・BLS インストラクター
諏訪 秀明	冠動脈インターベンション ペースメーカー植え込み	総合内科専門医 日本心血管インターベンション治療学会専門医
古敷 陽太	冠動脈インターベンション ペースメーカー植え込み	日本心血管インターベンション治療学会認定医
加藤 徹	循環器内科全般 非侵襲検査	総合内科専門医 獨協医科大学医学部 心臓血管内科特任教授

### <診療体制>

常勤医4人、非常勤1人で月～金の毎日循環器外来を行っております。循環器救急におきましては重症度に応じ24時間体制で臨んでいますので、時間外でもまず相談ください。

月	火	水	木	金	土・日・祝日
足立	加藤	足立	福田 (足立)	諏訪 古敷	救急および紹介患者 (要連絡)のみ



写真/カテーテル室に従事するスタッフ達と  
前列左 古敷陽太 中央 筆者 右 諏訪秀明

## 菅井皮膚科パークサイドクリニック

理事長 菅井 順一

宇都宮市元今泉の国道4号線沿いにおいて医療法人すばる会菅井皮膚科パークサイドクリニックを開設しております。当院は亡父・菅井昂夫前理事長が開院した施設を継承した施設になります。父は国立栃木病院（現栃木医療センター）に皮膚科・泌尿器科医として勤務することを契機に栃木県に来ることとなりました。何年に国立栃木病院に勤務を始めたのかは定かではありませんが、昭和39年12月24日の学会の記録に国立栃木病院の所属で発表している記載があることから、少なくともそれ以前から栃木県に来ていたかと思われます。この頃は皮膚科・泌尿器科の医師も余りいない時代であった様です。この後には済生会宇都宮の皮膚科・泌尿器科の開設なども行い、昭和42年9月に池上町に旧本院である菅井皮膚科泌尿器科を開院しました。その後昭和60年7月に駅東に菅井皮膚科パークサイドクリニックの前身である第二児童公園前診療所（その後パークサイドクリニックに改称）を開設し、宇都宮市の東西にて地域診療を行って参りました。

私は平成11年4月より、当院に着任しました。その後には父の築き上げた技術・手法を学び、そして私が追いつけている最新の情報に基づいた医療を進化させ、これらの融合をテーマとしながら常に新しい皮膚科診療を確立していきたいと考えて日々の診療を行っております。現在では池上町の旧本院を統合し、令和2年には感染症対策も含めたリニューアル工事も行いました。

私の専門分野は乾癬、感染症（ウイルス・細菌・真菌）、痤瘡、そう痒性疾患（抗ヒスタミン薬）になります。また、自治医科大学の非常勤講師としての勤務も毎週水曜日に行っており、乾癬外来を担当させて頂いております。

当院の理念としては、日々に進化していく医療を積極的に捉える事を大切にする事だと考えております。この為には外来時間を短縮する場合も有るのですが、学会発表、論文作成、医療講演、研究会、マスコミ出演等及び臨床治験、臨床研究も多数行わせて頂いております。この為にも日々の診療を大切にしたいと思います。二つ目には専門的な知識をホスピタリティマインドと共にどの様に患者さんに伝えて、役立てて頂けるかを考えて行きたいと思っております。当院で十分に診療を行える分野においてはその役割を果たしていきながら、疾患によっては診診連携や病診連携が必要となる場合には適切にご紹介をさせて頂く事を積極的に行えるようにしたいと思います。

栃木医療センターを始め諸先生方に御高診のご依頼をさせて頂くことが多々有るかと思っておりますが、今後共宜しくお願い申し上げます。

### ご案内

診療科目 皮膚科

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:30~12:15	○	○		○	○	○	
14:30~18:00	○	○		○	○	17時まで	

※午前の受付時間は8:30~12:00、午後の受付時間は8:30~18:00となります。

休診 日曜日・祝祭日・水曜日



〒321-0954 栃木県宇都宮市元今泉6-7-7

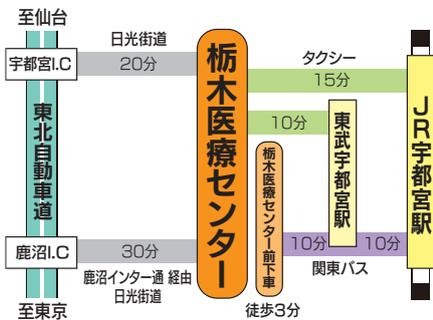
TEL 028-662-2471

# 寄附をいただきました

昨年の4月からたくさんの個人、法人の方から温かい支援をいただきました。この場を借りて御礼申し上げます。いただいた物は親子で手作りしたフェイスガードなどお気持ちが伝わるもの。また、医療現場で必要としている非接触型体温計などの物品です。詳細は割愛しますが全国から届いております。昨年のはじめは、マスクやガウンが海外から入ってこなくなりPPE（個人防護具）やサージカルマスクが足りなくなりました。1週間に1枚の配給、PPE（個人防護具）はリサイクルやポンチョやカップパで対応。感染に怯えながら対応している医師、看護師、その他の従事者もたくさんの寄附、温かいお手紙で頑張れたと思います。また皆様の寄附には職員一同感謝しております。幸いなことに職員から感染者は出していませんが引き続き感染対策をしっかりと実施して安心・安全な医療を提供し地域の病院として頑張りますので引き続き応援よろしくをお願いします。



## 交通のご案内



### 発行人

独立行政法人国立病院機構  
 栃木医療センター  
 院長 長谷川 親太郎

〒320-8580  
 栃木県宇都宮市中戸祭1-10-37  
 TEL. 028-622-5241  
 FAX. 028-625-2718  
 URL. <https://tochigi.hosp.go.jp/>

